

バイオナック殺菌力評価試験結果

A. 試験結果

供試菌 初発菌数 個/ml	バイオナック 適用処理液 希釈倍率 (倍)	作用時間と生菌数(個/ml)		
		30 秒	10 分間	30 分間
<i>E.Coli</i> 大腸菌 (1.4×10^8)	100	$< 10^1$	$< 10^1$	$< 10^1$
	200	$< 10^1$	$< 10^1$	$< 10^1$
	400	$< 10^1$	$< 10^1$	$< 10^1$
<i>S.aureus</i> 黄色ブドウ球菌 (8.4×10^7)	100	$< 10^1$	$< 10^1$	$< 10^1$
	200	$< 10^1$	$< 10^1$	$< 10^1$
	400	$< 10^1$	$< 10^1$	$< 10^1$
<i>P.aeruginosa</i> 緑膿菌 (2.9×10^8)	100	$< 10^1$	$< 10^1$	$< 10^1$
	200	$< 10^1$	$< 10^1$	$< 10^1$
	400	$< 10^1$	$< 10^1$	$< 10^1$

(表①)

B. 試験方法

1) 供試薬剤: バイオナック

2) 供給菌株

- Escherichia coli ATCC 8739 (大腸菌)
- Staphylococcus aureus ATCC 6538 (黄色ブドウ球菌)
- Pseudomonas aeruginosa ATCC 9027 (緑膿菌)

3) 試験方法

: AOAC Method 960.09 に準じた下記にて実施した。

- ① 試験菌液の調製: 各供試菌株の新鮮培養菌をニュートリエントアガー (NA) スラントに接種して、37°C で 20 時間培養、スラントにリン酸緩衝液およびガラスビーズ数個を加えて揺り動かし、剥離した菌体懸濁液を滅菌容器に移し、菌体懸濁液をワットマン No.2 濾紙をセットしたフィルターユニットに通し、これを試験菌液とした。なお、この懸濁液は、約 1010 個/ml の菌体を含むことを確認した。

② 適用バイオナック 処理液の調製

・バイオナック滅菌精製水にて 100 倍、200 倍、400 倍に希釈し、それぞれ 99ml ずつを 200ml 容器に入れ殺菌試験に供した。

③ 殺菌試験操作

・バイオナック 処理液を 25℃の恒温水槽に置き、各試験菌液 1ml を接種し、30 秒後、10 分後、30 分後にその 1ml を中和液 9ml に移し、段階希釈法による生菌数を測定した。

* : レシチン 0.2%、Tween-80 / 1.4% を含むリン酸緩衝液。

C. 結果

大腸菌、黄色ブドウ球菌、緑膿菌に対するバイオナック洗浄剤の殺菌効果は、(表①)より 400 倍 の高希釈液でも 速やかに発揮 されることが 確認 された。

以上

株式会社ウレシン

660-0072 兵庫県尼崎市大庄川田町 3 2